

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21 年 11 月 20 日
調査実施の時間	開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 40 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 愛の郷 引野 _____ (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 岡田 清子 _____
	氏名 土谷 静子 _____
事業所側対応者	職名 管理者 _____
	氏名 井上 京子 _____
	ヒアリングを行った職員数 (2) 人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定していません。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471504617	(評価機関で記入)
法人名	NPO法人 エルダーサポート協会	
事業所名	グループホーム 愛の郷引野	
所在地	福山市引野町北5丁目22-5 (電話) 084-946-6575	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21 年 11 月 20 日	

【情報提供票より】 2009年11月16日

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 17 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 13 人 非常勤 4 人 常勤換算 16,1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(11 月 6 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	83 歳	最低 68 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森田内科クリニック 福山第一病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日平成 21年 12月1日

市の東部に位置し、事業所は、国道の直ぐ側にあり、敷地内には小規模多機能事業所もありお互いに職員、利用者が交流しながら親睦を深めている。ホームの理念は「安心安全・季節を感じる生活・家族や地域との絆」を軸に管理者・職員は笑顔を絶やさず、「いつまでも元気で！」を合言葉に支援されている。職員は家族の意見・苦情の大切さを認識し、意見箱に安心して意見を表せるようにされ、苦情要望を聞いた時は対処方法・改善方法を掲示している。看取りに関する指針を文書にし、職員全員で方針を共有して、家族と医師と事業所で状況変化に応じた話し合いを何度も繰り返しながら、実際に看取りを行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価で見出された課題については改善計画表に改善目標を書き、真摯に受け止められている。改善に向けた計画内容で出来ていないところは検討され、改善に向け努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価のねらいや活用方法を全職員が理解するようにミーティング時に少しずつ話していき、自己評価につなげた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	管理者が4月に交代したこと等により運営推進会議が6月に一度しか開催されてない。会議では報告や情報交換にとどまり、参加者も外部からは少数である。参加者が市担当者を含め、運営推進会議の意義や役割などを十分に理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけていく事が求められる。また、評価への取組状況等についての報告や話し合いも行い、質確保を図っていく事が期待される。
重点事項	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族来訪時には声をかけ、暮らしぶりや健康状態・金銭納を報告し、遠方の家族等には定期的に個々に合わせた報告をしている。変化や問題が起きた時には即連絡している。職員は家族の意見・苦情の大切さを認識し意見箱を設置し、安心して気軽に意見を表せるようにしている。苦情・要望を聞いた時は対処・改善方法を掲示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域区割りで来年4月から町内会が変わる。これまでも地域の一員として掃除・地域行事等には積極的に参加している。共に暮らす地域住民として介護の事などで困った時には「駆け込み寺」的に事業所を使ってもらえるように努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念で「利用者の安心安全」「季節感を大事にした生活」二つの理念に地域密着型として「家族・地域との絆を深める」の理念を新たに加え三つにして、現状にあった事業所独自の理念に作り変えた。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の中で管理者と職員は理念を意識しながら、実践が理念に基づいたものになるように日常的に取り組んでいる。調理場にも掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域区割りで来年4月から町内会が変わる。これまでも地域の一員として掃除・地域行事等には積極的に参加している。共に暮らす地域住民として介護の事などで困った時には駆け込み寺的に使ってもらえるように努めている。		
を					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法を全職員が理解するようにミーティング時に少しずつ話していき、自己評価につなげた。評価で見出された課題については改善計画を作成し取り組んだ。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が4月に交代したこと等により運営推進会議への取り組みが6月に一度しか開催されていない。会議では事業所からの報告や情報交換にとどまり、参加メンバーも外部からの参加者は少数である。		参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割などを十分に理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけていくことが求められる。また、評価への取組状況等についての報告や話し合いを行い、連携を深め、質確保を図っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者が来られた折に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えて、市町村の考え方を教えてもらい、看取り等の相談もする。しかし、連携とまではいかない。		市町村担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える機会を密に作り、課題解決を図っていく取り組みが大切である。関係作りを積極的に行い、協働関係を継続されることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には声をかけ、事業所での暮らしぶりや健康状態・金銭出納を報告し、遠方でなかなか来られない家族等には定期的に個々に合わせた報告をしている。何らかの変化や問題が起きた時には、即連絡している。職員の異動は前任者が手紙で、後任者は直接電話で報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の意見・苦情の大切さを認識し、見え易い所に意見箱を置き、家族等が安心して気軽に意見を表せるようにしている。苦情・要望を聞いた時は対処方法や改善方法を掲示し、前向きに活かすようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	4月に管理者の異動はあったが、職員の異動は全く無いので、利用者は馴染みの関係が保たれている。新管理者と職員はダメージを最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修は講師を招き、二ヶ月に一度実施している。月一回の事業所ミーティングもテーマを決め、ミニ研修を行なっている。外部研修は職員の質向上の為に参加を積極的に呼びかけ、参加者は研修内容を報告書にて提出し全員で共有する。新人研修も二ヶ月に一度実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流や連携の必要性を認識し、地域の他事業所にホーム便りを持って挨拶に行っている。同じ立場で日頃の仕事の悩み等を話し合える交流の意義をお互いに確認し、前向きにサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は家族と一緒に事業所に来てもらい2～3時間職員や他の利用者と共に過ごす事を3～4日繰り返し行なってもらう。本人が安心して納得して徐々に馴染み、事業所での生活が安定するのを見極めて、本格的な利用に移っていきけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々の役割を大切にやり終えたときに達成感を感じてもらい、職員は感謝の言葉を伝えている。一緒に過ごすなかで、お互いの表情やしぐさから抱きしめて泣いたり笑ったり、言いたい事を言える家族的な関係が築かれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向について把握し、声かけをしてそれとなく確認している。把握が困難な場合は家族や関係者から情報を得たり、日々の行動や表情から汲み取り希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を大事にし、本人の視点にたってその人らしく暮らしていくために必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画を作成している。カンファレンスで職員全員の意見、気づきを話しあい、介護計画に取り入れている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1～3カ月に見直しが行われている。毎日新鮮な目で見るようにしている。小さなことでも気づきがあれば生活表に記入し、みんなに伝え、ミニカンファレンスを開き、即対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて利用者本人のかかりつけ医の受診や眼科等の受診に付き添ったり、終末期の入院を回避し家族の要望に向き合い、事業所として必要な支援を柔軟に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々に適切な医療を選択してもらっている。利用前からのかかりつけ医の受診に、家族の状況に応じて通院介助を行ない良好な関係を築いている。利用者の個人的訪問看護も受け入れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には「看取りに関する指針」を文書にして、入居時に重要事項説明書の書類と共に説明している。職員は全員で方針を共有し、家族と医師と事業所で状況変化に応じた話し合いを繰り返している。実際に看取り支援を行なった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等は事務所に厳重に保管をしている。職員は言葉かけに配慮し誘導の声かけも本人を傷つけてしまわないように、日々の関わり方にも気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先するのではなく、利用者のペースにそって、その日、その時の一人ひとりの気持ちを尊重して自由に暮らせるように、柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に準備や食事作り、片付けを行なっている。食事介助の職員は同じテーブルに付き、利用者に言葉掛けをしながらさりげない介助している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの意向を第一に、スムーズで安全な入浴を心がけ、身体の機能に合わせた浴場を決めている。体調も考慮しながら、少なくとも2日に一度は入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い・買い物(週2回)・縫い物・歌・ハーモニカ・体操・花の世話・知人、友人の月1回の来訪...等、利用者一人ひとりの楽しみごとや気晴らしを把握して支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外で気持ちよく過ごせるように庭の芝生の上を歩いたり、外気浴を楽しんだり、ドライブに出かける等の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛けることなく、職員の見守りを徹底し、利用者が出て行きそうな気配を感じたら、さりげなく声をかけたり一緒についていく等の支援をしている。夜間は施錠して、家族の了解が得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行なっている。事業所はいろいろな場面を想定し、具体的な避難誘導策を決めている。来年4月に町内会が変わるので地域の人々の協力が得られるよう働きかけをするよう取り組む予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりが一日全体で、どの程度の栄養や水分の量であるかを記録し把握している。暮らし全体を通じて食欲を促し、季節を感じる食事にこだわり、支援している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごす共用空間は、一人ひとりの利用者にとって使用しやすい広さであり、ソファ・テレビ等の配置も程よく、安らぎ安心して暮らせる、居心地のよい場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの好みの居室となっている。家族の写真や仏壇・自作の手芸品等...使い慣れた馴染みの物を傍らに置いて、個別に応じた工夫を家族と共にしている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 愛の郷引野 (ユニット1)

評価年月日 2009年 11月 20日

記入年月日 2009年 11月 6日

記入者 管理者 氏名 井上 京子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心・安全で四季を感じられる食事と関わりを持つ・家族・地域との絆を深める。を理念とし、ケアを行っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	季節を感じていただくとの理念に向けて、会話や、食事ドライブ等実践している。敬老会などの地域の行事へも参加している。	職員全員で理念を共有するために、ミーティングなどでも理念に向けた取り組みなどを話し合う機会を持って増やし、実践につなげていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム前の道などで出会った折には挨拶を交わしたり、町内会の行事、運営推進会議等で認知症を理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム前の道などで出会った折には挨拶を交わしたり、演劇かいなどのお誘いをしたり、老人会の皆様が寄ってくださる事がある。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、掃除や敬老会の行事へ参加している。チャレンジウィークで中学生が職場体験に来ています。TAと協力し、ホームでの音楽会、音楽療法、お花の会などチラシを作成し気楽に来て頂けるよう心掛けています。	今後は町内会が変わるので文化祭や、とんどまつり、防災訓練など町内会との関わりを深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会・老人会の代表・福祉の係りの方へ、一人で困っている方はいないか、お花の会や音楽の会等のお誘いを試みたり、民生委員からの相談もあり、対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価ともに『これでよいのか』との振り返りの機会としている。研修の時に少しずつ勉強しているところです。		今後も、スタッフ全員で取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の介護度や、利用状況、を報告している。家族からは、個別ケアが行えるグループホームであってほしいなどの意見があり、それを目指している。		町内会が新しくなるので、また、1から取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導に来られた担当の方（介護支援相談委員）に分らない事があればお聞きしたり、状態変化時のケアプラン作成など教えていただいたりし、質の向上を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	難しいケースなどは市町村担当者と話し合いを行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5つの虐待について勉強をしている。何気なく行っている事や言葉で傷つけていないか、スタッフ同士で確認しながらケアを行っている。		今後も、確認を続けていきたい。また、スタッフ同士が意見が言える雰囲気を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、その方の今までの生活を崩すことのないように、情報収集を行っている。また、家族の要望、本人の要望も聞いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を置き、気軽に要望が言えるよう努めている。苦情や要望が言えるような関わりを心掛けている。</p>		<p>今後は苦情・要望が聞きだせた時は、その対処方法や改善の様子などを掲示していきたい。まずは小さなことから言いやすい環境を作していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には普段の様子、金銭出納の確認サインをしていただいている。愛の郷だよりは毎月発行し普段のホームの様子や行事の様子をお知らせしている。変わったことがある際は随時電話で連絡を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時、苦情の相談窓口、相談機関の紹介を行っている。小さな不信感が大きなことになることがあるため、何でも言っていただくよう話している。</p>		<p>今後は苦情・要望があった際はその対処方法や改善の様子などを掲示していきたい。まずは小さなことから言いやすい環境を作していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の定例会議で意見を出し合い、運営が円滑にいくよう皆の意見を反映している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族より要望があれば、その都度職員と話し合い、時間の配分など調節し対応している。買い物や受診など。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の異動がりましたが、大きなダメージが起きない様努力している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修のお知らせなどがあった場合は、ユニットごとに掲示したり、声をかけ自らが勉強するよう働きかけている。内部研修ではスキルアップ研修とし、2ヶ月に1回参加している。</p>	<p>研修の機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者が近くのグループホームへ通信などを持参し交流のきっかけを作っているが、お互いにその意向はあるが、交流は図れていない状況である。</p>	<p>今後も、通信の配布や交流を図りたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年2回の親睦会を行い、ストレス発散の場になっている。また、常々ストレスが軽減できるよう、スタッフ同士声かけを行っている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の、考課表を用いた自己評価を行い、各自が向上心をもてるよう、また、一言ずつコメントをしている。</p>	<p>今後は、面談を行い個々の目標を明確化し、向上心をもてるようにしていきたい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接の場で、アセスメントをしっかり行い、不安なことや要望を聞きだすよう、話しやすい状況を作っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接の場で、アセスメントをしっかり行い、不安なことや要望を聞きだすよう、話しやすい状況を作っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能の紹介や、在宅での生活が可能と思われる場合、医療が必要な場合は、福祉用具の必要性などその対応を行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、本人にも見学に来ていただき、他利用者・職員との関わりを持っていただき、自然に利用が開始できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や家事への参加により、お互いに認め合えるよう努めている。		利用者の持っている力を引き出し、それを認め合いお互いが支えあえる場面をもっと作っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際など今の状況の報告や家族の意向をお聞きしながら、一緒に支えられるよう話をする機会をもつよう対応している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	介護の問題などで、うまくいっていない家族関係もありますので、ゆっくりあせらず対応し、修復しているケースもあります。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会や友人の面会があり、途切れないように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルとなることもありますが、またそれも社会参加とし離すことはせず、よいところを紹介し架け橋となるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長引き、契約解除された方など何かありましたら連絡をくださいと話をしている。継続して連絡を取り合っているケースもあります。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家事に参加して生き生きする方、またそうではない方など、部屋でゆっくりしたい人など本人の表情など観察しながら検討をしている。		今後も、ひとりひとり思いが違いますので、検討を続けてよりよい生活を提供していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にお聞きしていますが、家族との会話のなかで聞きだし把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	どんな状況だとできたか、できなかつたかを、スタッフで申し送り、記録し把握できるよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向を踏まえ、カンファレンスを行い、計画を作っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1～3ヶ月ごとに見直しを行っている。状況が変わった方は、随時計画を変更し実行している。		今後も、小さなことでも気付きがあれば、ミニカンファを行い変更していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活表を使い、ケアの実践、結果、気づきなど暗号化することで共有でき記録時間を少なくし、関わる時間を多くなるよう工夫している。また、見直し時にも活用している。		9月より、試みていますが、もっと進化させていきたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	調子が悪くなった方などの付き添い（宿泊）や、外泊など柔軟な対応を行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの慰問や、消防署の消火訓練、民生委員さんの来訪、チャレンジウィークなどがあります。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問の歯科の利用や訪問看護の利用を、話し合いを用いながら本人にとってよい方向になるよう支援しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	そのような必要性がある場合は、行っていきます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関にこだわらず、適切な医療の選択をしていただいています。ホーム協力医療機関のDr、家族と連携するよう努力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状を踏まえ、他科への診察時は主治医よりの紹介状を必ず持参しています。待ち時間などの調整も行っています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師や、協力病院看護師、小規模多機能の看護師と連携をし、Drへつなげている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期に退院できるよう情報交換を行なっている。通信の配布などを活用し、信頼関係を持てるよう活動をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針をたて、本人・家族の意向をDrへ伝え、カンファレンスを開き、本人にとってどうするのがよいかを皆で共有している。		今後も、終末期の利用者、家族をよりよい方向へサポートしていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護スタッフが出来ること、看護師ができることなどを見極め、状態によっては家族との話し合いの上、訪問看護などの利用も行なっている。		今後の方針としては、家族会等でその時に備えて、話をし、利用者のより良い終末期を迎える準備をしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に情報交換を行ない、ダメージがないよう配慮をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報に関する事柄についての言動は充分注意している。記録は、事務所へ保管している。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何かに迷っておられる際は、まずは見守りを行い、どうしたらよいかを一緒に考え混乱のないように対応している。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な暮らしができるようにしている。利用者のペースにあわせ、好きなことができるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、美容師さんが来られ、その時の本人さんの希望で施行している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は食材により、筋をとったり、皮をむいたり、後片付けを一緒に行っている。食事は一緒に食してはいますが、隣へ座り、自然な形で介助を行っています。		職員も利用者と同じ目線で食事が楽しめるようにしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	状態に合わせて、好きなものを楽しんでいただいています。嚥下の状態が悪い方なども、口の中でとけるおやつなどに変更し、楽しまれています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	排泄のパターンを記録し、トイレ誘導を行っています。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	身体の機能に合わせての浴槽を決めていますので曜日は設定していますが、タイミングにあわせ対応しています。また、入浴出来ない場合などは臨機応変に曜日を変えて対応しています。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	生活習慣の情報を把握し、休息と活動のバランスをとりながら対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	買物や、縫い物、うた、ハーモニカ、体操や、花の世話など好きな事引き出し、支援しています。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人の状態により、現金を持っていただいている方もおられます。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	気分転換のため、外気浴や、花の世話、買物やドライブの支援を行っています。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	外出が可能な方は自宅へ一時帰宅や、お墓参りなど家族と連携をし、対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話などができるように援助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人・友人が定期的にこられている。いままでの関係など世間話でお聞きし、普段の生活の中にも会話を行い、いつでも来て頂けるよう援助している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを活用し、勉強会を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉じ込められているとの思いをしなくていいようにいつでも、出かけられると思っていただけるよう、玄関は開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は常に行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の力量に合わせて、持っていただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本人の状態に合わせ、観察や勉強会を行っているが不十分である。		定期的に計画を立て行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変に備え緊急マニュアルを作成していますが、訓練は行っていない。		定期的に計画を立て行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練・消火訓練（消防署職員による指導）を行い、各自も自覚できるよう取り組んでいる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様の状態により、危険性があることは、家族と十分に話し合い方針を決めている。		なかなか伝わらない事や誤解などがある場合もありますので、じっくり関わっていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定や食欲や顔色、脱力感などいつもと違う場合は情報を共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書を個人記録へはさみ、いつでも見れるようにしている。また、一覧表も作成し薬の管理を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけにたよるのではなく便秘体操やヨーグルト、バナナなどの対応も行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア教室を開き、誤嚥性の防止、口腔内の清掃を毎食後行っている。		心が開けば、口が開くを方針とし、本人の状態に合わせ無理のない口腔ケアを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事量の把握はできている。食欲不振など場合はDrと相談しながら補助食品も使用している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染についての勉強会を行っている。感染予防マニュアルも作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、手指の消毒、を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりへ、花の鉢をおいたり、芝生も手入れを行い気持ち良くきていただけるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日あたりがよく、ソファをおいたりし、居心地がよくなるよう配慮している。日差しがきつい時などはカーテンをし、不快とならないよう努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間へはひとりになる場所はないが、気の合ったもの同志ソファへ座り、おしゃべりしている場面があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、なじみの家具や小物を出来るだけ持ってきていただいている。入居後も本人から知りえた情報をご家族にお伝えし持ってきていただくようお願いをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天窓がついており、換気を行い、温度調節も入居者に合わせ、状況に応じて行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の障害になるようなものは置かないよう配慮している。床がぬれていないかの配慮もしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者に合わせ、声かけや援助を行い、力を活かして生活できるよう心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近、建物の前の芝生、畑仕事や花見などを行っている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの理念である安心安全・季節を感じていただける食事とかかわり・家族・地域との絆を深めるを目標に取り組んでいます。季節を感じていただける食事は、季節の食材を活かし楽しく食事が摂れるよう工夫しています。地域・家族との絆を深めようと、本年度は、地域に出かける機会を多く作っています。敬老会の行事・文化祭・選挙などの地域への参加しています。いつまでも元気でを合言葉に、体操カードを作成し、シールを貼り、毎日行なう楽しみにしています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 愛の郷引野 (ユニット2)

評価年月日 2009年 11月 20日

記入年月日 2009年 11月 6日

記入者 管理者 氏名 井上 京子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心・安全で四季を感じられる食事と関わりを持つ・家族・地域との絆を深める。を理念とし、ケアを行っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	季節を感じていただくとの理念に向けて、会話や、食事ドライブ等実践している。敬老会などの地域の行事へも参加している。	職員全員で理念を共有するために、ミーティングなどでも理念に向けた取り組みなどを話し合う機会を持って増やし、実践につなげていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム前の道などで出会った折には挨拶を交わしたり、町内会の行事、運営推進会議等で認知症を理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム前の道などで出会った折には挨拶を交わしたり、演劇かいなどのお誘いをしたり、老人会の皆様が寄ってくださる事がある。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、掃除や敬老会の行事へ参加している。チャレンジウィークで中学生が職場体験に来ています。TAと協力し、ホームでの音楽会、音楽療法、お花の会などチラシを作成し気楽に来て頂けるよう心掛けています。	今後は町内会が変わるので文化祭や、とんどまつり、防災訓練など町内会との関わりを深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会・老人会の代表・福祉の係りの方へ、一人で困っている方はいないか、お花の会や音楽の会等のお誘いをしてみたり、民生委員からの相談もあり、対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価ともに『これでよいのか』との振り返りの機会としている。研修の時に少しずつ勉強しているところです。		今後も、スタッフ全員で取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の介護度や、利用状況、を報告している。家族からは、個別ケアが行えるグループホームであってほしいなどの意見があり、それを目指している。		町内会が新しくなるので、また、1から取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導に来られた担当の方（介護支援相談委員）に分らない事があればお聞きしたり、状態変化時のケアプラン作成など教えていただいたりし、質の向上を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	難しいケースなどは市町村担当者と話し合いを行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5つの虐待について勉強をしている。何気なく行っている事や言葉で傷つけていないか、スタッフ同士で確認しながらケアを行っている。		今後も、確認を続けていきたい。また、スタッフ同士が意見が言える雰囲気を作っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、その方の今までの生活を崩すことのないように、情報収集を行っている。また、家族の要望、本人の要望も聞いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を置き、気軽に要望が言えるよう努めている。苦情や要望が言えるような関わりを心掛けている。</p>	<p>今後は苦情・要望が聞きだせた時は、その対処方法や改善の様子などを掲示していきたい。まずは小さなことから言いやすい環境を作っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には普段の様子、金銭出納の確認サインをしていただいている。愛の郷だよりは毎月発行し普段のホームの様子や行事の様子をお知らせしている。変わったことがある際は随時電話で連絡を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時、苦情の相談窓口、相談機関の紹介を行っている。小さな不信感が大きなことになることがあるため、何でも言っていただくよう話している。</p>	<p>今後は苦情・要望があった際はその対処方法や改善の様子などを掲示していきたい。まずは小さなことから言いやすい環境を作っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の定例会議で意見を出し合い、運営が円滑にいくよう皆の意見を反映している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族より要望があれば、その都度職員と話し合い、時間の配分など調節し対応している。買い物や受診など。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の異動がりましたが、大きなダメージが起きない様努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のお知らせなどがあった場合は、ユニットごとに掲示したり、声をかけ自らが勉強するよう働きかけている。内部研修ではスキルアップ研修とし、2ヶ月に1回参加している。		研修の機会を増やしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が近くのグループホームへ通信などを持参し交流のきっかけを作っているが、お互いにその意向はあるが、交流は図れていない状況である。		今後も、通信の配布や交流を図りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回の親睦会を行い、ストレス発散の場に行っている。また、常々ストレスが軽減できるよう、スタッフ同士声かけを行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の、考課表を用いた自己評価を行い、各自が向上心をもてるよう、また、一言ずつコメントをしている。		今後は、面談を行い個々の目標を明確化し、向上心をもてるようにしていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接の場で、アセスメントをしっかり行い、不安なことや要望を聞きだすよう、話しやすい状況を作っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接の場で、アセスメントをしっかり行い、不安なことや要望を聞きだすよう、話しやすい状況を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能の紹介や、在宅での生活が可能と思われる場合、医療が必要な場合は、福祉用具の必要性などその対応を行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、本人にも見学に来ていただき、他利用者・職員との関わりを持っていただき、自然に利用が開始できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や家事への参加により、お互いに認め合えるよう努めている。		利用者の持っている力を引き出し、それを認め合いお互いが支えあえる場面をもっと作っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際など今の状況の報告や家族の意向をお聞きしながら、一緒に支えられるよう話をする機会をもつけるよう対応している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	介護の問題などで、うまくいっていない家族関係もありますので、ゆっくりあせらず対応し、修復しているケースもあります。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会や友人の面会があり、途切れないように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルとなることもありますが、またそれも社会参加とし離すことはせず、よいところを紹介し架け橋となるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長引き、契約解除された方など何かありましたら連絡をくださいと話をしている。継続して連絡を取り合っているケースもあります。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家事に参加して生き生きする方、またそうではない方など、部屋でゆっくりしたい人など本人の表情など観察しながら検討をしている。		今後も、ひとりひとり思いが違いますので、検討を続けてよりよい生活を提供していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にお聞きしていますが、家族との会話のなかで聞きだし把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	どんな状況だとできたか、できなかつたかを、スタッフで申し送り、記録し把握できるよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向を踏まえ、カンファレンスを行い、計画を作っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1～3ヶ月ごとに見直しを行っている。状況が変わった方は、随時計画を変更し実行している。		今後も、小さなことでも気付きがあれば、ミニカンファを行い変更していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活表を使い、ケアの実践、結果、気づきなど暗号化することで共有でき記録時間を少なくし、関わる時間を多くなるよう工夫している。また、見直し時にも活用している。		9月より、試みていますが、もっと進化させていきたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	調子が悪くなった方などの付き添い（宿泊）や、外泊など柔軟な対応を行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの慰問や、消防署の消火訓練、民生委員さんの来訪、チャレンジウィークなどがあります。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問の歯科の利用や訪問看護の利用を、話し合いを用いながら本人にとってよい方向になるよう支援しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	そのような必要性がある場合は、行っていきます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関にこだわらず、適切な医療の選択をしていただいています。ホーム協力医療機関のDr、家族と連携するよう努力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状を踏まえ、他科への診察時は主治医よりの紹介状を必ず持参しています。待ち時間などの調整も行っています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師や、協力病院看護師、小規模多機能の看護師と連携をし、Drへつなげている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期に退院できるよう情報交換を行なっている。通信の配布などを活用し、信頼関係を持てるよう活動をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針をたて、本人・家族の意向をDrへ伝え、カンファレンスを開き、本人にとってどうするのがよいかを皆で共有している。		今後も、終末期の利用者、家族をよりよい方向へサポートしていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護スタッフが出来ること、看護師ができることなどを見極め、状態によっては家族との話し合いの上、訪問看護などの利用も行なっている。		今後の方針としては、家族会等でその時に備えて、話をし、利用者のより良い終末期を迎える準備をしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に情報交換を行ない、ダメージがないよう配慮をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報に関する事柄についての言動は充分注意している。記録は、事務所へ保管している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何かに迷っておられる際は、まずは見守りを行い、どうしたらよいかを一緒に考え混乱のないように対応している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な暮らしができるようにしている。利用者のペースにあわせ、好きなことができるようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、美容師さんが来られ、その時の本人さんの希望で施行している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は食材により、筋をとったり、皮をむいたり、後片付けを一緒に行っている。食事は一緒に食してはいますが、隣へ座り、自然な形で介助を行っています。	職員も利用者と同じ目線で食事が楽しめるようにしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	状態に合わせて、好きなものを楽しんでいただいています。嚥下の状態が悪い方なども、口の中でとけるおやつなどに変更し、楽しまれています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	排泄のパターンを記録し、トイレ誘導を行っています。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	身体の機能に合わせての浴槽を決めていますので曜日は設定していますが、タイミングにあわせ対応しています。また、入浴出来ない場合などは臨機応変に曜日を変えて対応しています。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	生活習慣の情報を把握し、休息と活動のバランスをとりながら対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	買物や、縫い物、うた、ハーモニカ、体操や、花の世話など好きな事引き出し、支援しています。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人の状態により、現金を持っていただいている方もおられます。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	気分転換のため、外気浴や、花の世話、買物やドライブの支援を行っています。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	外出が可能な方は自宅へ一時帰宅や、お墓参りなど家族と連携をし、対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話などができるように援助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人・友人が定期的にこられている。いままでの関係など世間話でお聞きし、普段の生活の中にも会話を行い、いつでも来て頂けるよう援助している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを活用し、勉強会を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉じ込められているとの思いをしなくていいようにいつでも、出かけられるとさせていただけるよう、玄関は開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は常に行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の力量に合わせて、持っただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本人の状態に合わせ、観察や勉強会を行っているが不十分である。		定期的に計画を立て行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変に備え緊急マニュアルを作成していますが、訓練は行っていない。		定期的に計画を立て行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練・消火訓練（消防署職員による指導）を行い、各自も自覚できるよう取り組んでいる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者様の状態により、危険性があることは、家族と十分に話し合い方針を決めている。		なかなか伝わらない事や誤解などがある場合もありますので、じっくり関わっていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定や食欲や顔色、脱力感などいつもと違う場合は情報を共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書を個人記録へはさみ、いつでも見れるようにしている。また、一覧表も作成し薬の管理を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけにたよるのではなく便秘体操やヨーグルト、バナナなどの対応も行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア教室を開き、誤嚥性の防止、口腔内の清掃を毎食後行っている。		心が開けば、口が開くを方針とし、本人の状態に合わせ無理のない口腔ケアを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事量の把握はできている。食欲不振など場合はDrと相談しながら補助食品も使用している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染についての勉強会を行っている。感染予防マニュアルも作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、手指の消毒、を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりへ、花の鉢をおいたり、芝生も手入れを行い気持ち良くきていただけるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日あたりがよく、ソファをおいたりし、居心地がよくなるよう配慮している。日差しがきつい時などはカーテンをし、不快とならないよう努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間へはひとりになる場所はないが、気の合ったもの同志ソファへ座り、おしゃべりしている場面があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、なじみの家具や小物を出来るだけ持ってきていただいている。入居後も本人から知りえた情報をご家族にお伝えし持ってきていただくようお願いをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天窓がついており、換気を行い、温度調節も入居者に合わせ、状況に応じて行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の障害になるようなものは置かないよう配慮している。床がぬれていないかの配慮もしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者に合わせ、声かけや援助を行い、力を活かして生活できるよう心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近、建物の前の芝生、畑仕事や花見などを行っている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの理念である安心安全・季節を感じていただける食事とかかわり・家族・地域との絆を深めるを目標に取り組んでいます。季節を感じていただける食事は、季節の食材を活かし楽しく食事が摂れるよう工夫しています。地域・家族との絆を深めようと、本年度は、地域に出かける機会を多く作っています。敬老会の行事・文化祭・選挙などの地域への参加しています。いつまでも元気でを合言葉に、体操カードを作成し、シールを貼り、毎日行なう楽しみにしています。